

第1 プラン策定にあたって

1. プラン策定の趣旨、目的

国や県における観光立国や観光立県を掲げた積極的な観光施策の推進、人々の観光に対するニーズの多様化や旅行形態の変化、北関東自動車道の開通などの旅行圏域の拡大など、環境の著しい変化に対応するため、本プランを策定し、本市の地域資源を最大限に活用し、魅力ある観光を総合的に推進する。

2. 計画期間

平成25年度～平成29年度（5年間）

3. プランの位置づけ

第5次宇都宮市総合計画における分野別計画「市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために」の基本施策「魅力ある観光と交流を創出する」ためのプランとする。

第2 本市の観光を取り巻く現状と課題

1. 本市観光の現状

- ・県内で最も入込客数が多いものの、推移は横ばい。
- ・宿泊者数は県内3位であり、増加傾向。
- ・外国人宿泊者数は、県内2位であり、他市町と比べて欧米系外国人の比率が高い。
- ・来訪目的は餃子が55%と最も高く、ショッピング、まちなか散策、飲食等が上位であり、カクテル、ジャズは少ない比率に留まっている。
- ・国内有数の工業団地を有し、商用目的の来訪者が多い。
- ・本市宿泊者（観光目的）の70%が市外の観光地を訪問。
- ・大谷では、平成元年の陥没事故以降、来訪者が減少傾向。
- ・スポーツや農業体験、産業観光等のニューツーリズムに対応する観光資源を豊富に有するものの、活用が不十分。
- ・ジャパソカップや熱気球大会等国際的イベントが開催されている。
- ・市民意識調査の満足度は高いものの、重要度はやや低い。

2. 旧プランの評価

旧プランで掲げた施策については、着実に推進を図っており、重点事業もすべて実施済である。ただし、旧プラン策定時（平成16年度）において顕在化していなかった、訪日外国人の増加や、ICT（情報通信技術）の進化による、携帯情報端末やSNS（ソーシャルネットワークサービス：フェイスブックやツイッター等）の急速な普及による情報発信手法の多様化、平成18年以降に宇都宮に本拠地を置いたプロスポーツの観光資源としての活用、推進体制の強化等の対応が求められている。

3. 本市観光の課題

- 《受入体制》
 - ・受入体制の充実
 - ・情報発信の強化
- 《観光資源の活用》
 - ・大谷地域の再活性化
 - ・コンベンション誘致の強化
 - ・日常生活や商用目的での来訪者への対応
- 《着地型観光》
 - ・市内観光資源周遊の促進
 - ・ニューツーリズムへの対応
- 《広域観光》
 - ・広域観光としての拠点機能強化
 - ・訪日外国人客の取り込み

「現状と課題」から本計画の基本理念・基本方向を設定

第3 基本理念と基本方向

基本理念

「愉快タウン！ 宇都宮」

◆本市の「住めば愉快」な都市の魅力と、「観れば愉快」「体験が愉快」な本市特有の観光資源の魅力を融合し、おもてなしの充実による「来れば愉快」な観光のまちを目指す。

基本方向

基本方向（1） おもてなしある受入体制の充実

市民一人ひとりがおもてなしの主演となり、官民一体でおもてなしを推進する。

基本方向（2） 観光資源の活用促進

歴史・文化をはじめとした既存資源のブラッシュアップと様々な地域資源の発掘により、観光都市としての魅力を高める。

基本方向（3） 着地型観光の促進

地域独自のきらりと光る観光ルートの開発により、来訪者の観光行動を促進する。

基本方向（4） 広域観光の促進

本市を拠点とした広域観光を推進する。

目標指標

「来てよかった」、「また訪れたい」と感じている来訪者の割合
44.6% → 50.0%
(平成23年12月現在)

年間入込客数
13,531千人 → 15,000千人
(平成22年実績)

宿泊者数
1,077千人 → 1,200千人
(平成22年実績)

第4 基本施策と重点事業

基本方向（1）

おもてなしある受入体制の充実

基本施策 ア 市民による

おもてなし意識の向上

- (ア) (仮称) つつのみやファンクラブの創設【重点】
- (イ) おもてなし運動の推進

基本施策 イ 受入体制の強化

- (ア) 観光コンシェルジュ制度の導入【重点】
- (イ) まちかど案内所の充実

基本施策 ウ 受入基盤の充実

- (ア) 二次交通アクセス、バス駐車場の充実【重点】
- (イ) 観光マーケティングの強化
- (ウ) 自転車の活用

基本施策 エ 観光情報発信の充実

- (ア) 情報発信の強化【重点】
- (イ) できかけてみよう宇都宮キャンペーンの実施

基本方向（2）

観光資源の活用促進

基本施策 ア 餃子を起点とした周遊促進

- (ア) 宇都宮餃子を活用した観光促進【重点】
- (イ) 餃子の街の推進

基本施策 イ 既存資源の磨き上げと新たな資源の発掘

- (ア) 石の里大谷の推進【重点】
- (イ) 道の駅ろまんちっく村の活用
- (ウ) 河内・上河内地域の資源の活用
- (エ) カクテルの街、ジャズの街の推進
- (オ) 食資源の活用
- (カ) つつのみや百景の活用

基本施策 ウ イベントの活用とコンベンション誘致強化

- (ア) MICE誘致強化【重点】
- (イ) アフターコンベンションの充実
- (ウ) イベント・祭りを活用した観光促進

基本方向（3）

着地型観光の促進

基本施策 ア 体験型観光・産業観光の推進

- (ア) 新旅行商品の開発【重点】
- (イ) 体験型観光メニューの充実

基本施策 イ スポーツ・ツーリズムの推進

- (ア) スポーツを活用した観光促進【重点】
- [再掲] 自転車の活用

基本施策 ウ グリーン・ツーリズムの推進

- (ア) 都市と農村の交流促進と農村地域の活性化【重点】
- (イ) 農業・農産加工体験の充実
- [再掲] 道の駅ろまんちっく村の活用
- [再掲] 河内・上河内地域の資源の活用

基本方向（4）

広域観光の促進

基本施策 ア 周辺地域との広域連携機能の強化

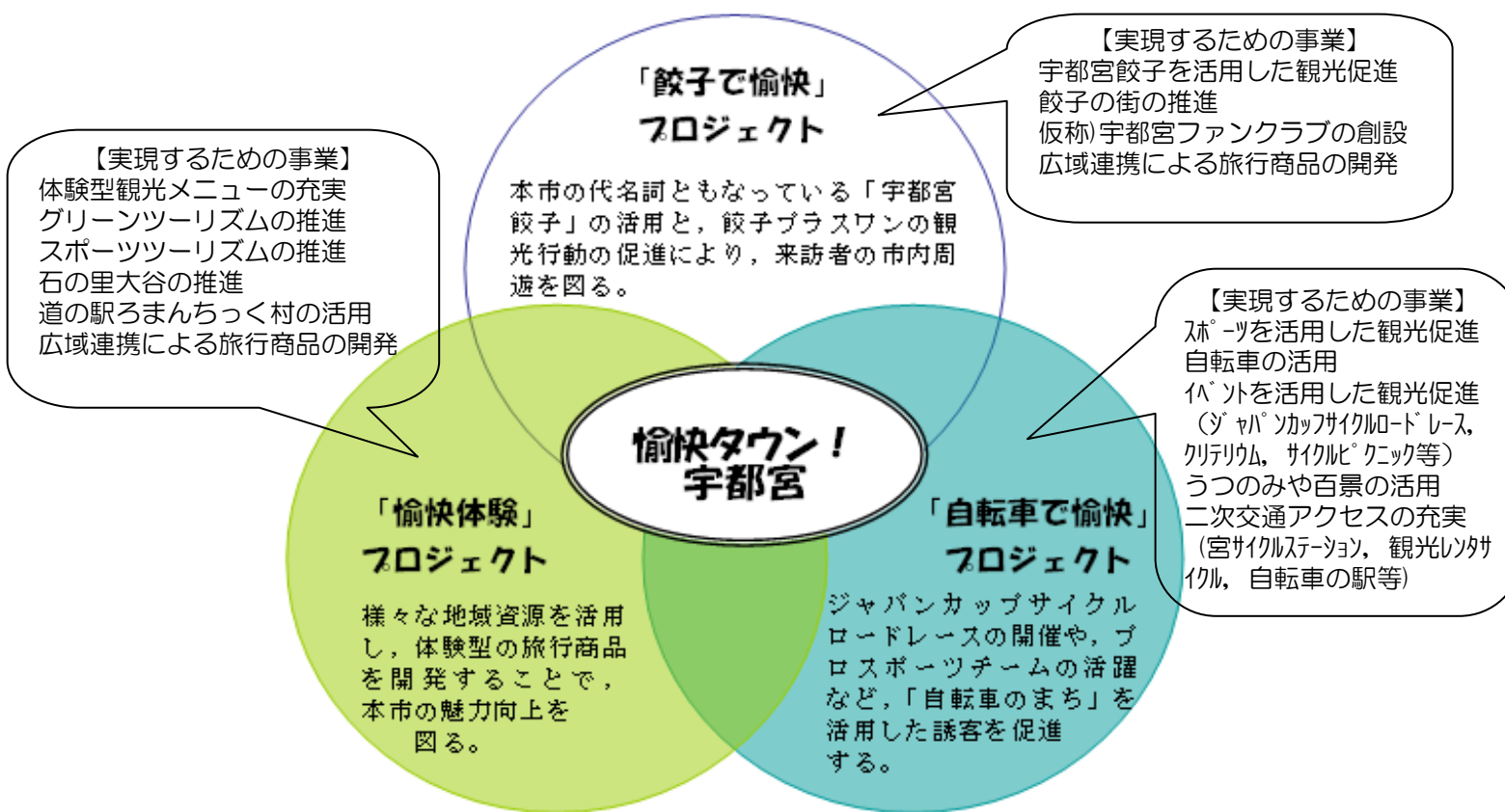
- (ア) 広域連携による旅行商品の開発【重点】
- (イ) 広域観光宣伝の強化

基本施策 イ 外国人受入体制の強化

- (ア) 外国人受入環境の整備【重点】
- (イ) 姉妹都市・文化友好都市等との観光交流促進

リーディングプロジェクトの設定

本市観光における最大の強みである「餃子」、ジャパンカップサイクルロードレースの会場地である「自転車のまち」、今後の誘客増に大きな可能性を有している「体験」をリーディングプロジェクトとして戦略的に推進し、あわせて、プロジェクトを横断的に結びつけた着地型の旅行商品の開発により、誘客促進を図り、「愉快タウン！宇都宮」の実現を目指す。



地域別観光振興

各地域の特徴を活かした地域別の観光振興と、地域間の連携を図り、観光事業を推進する。

◇北西部地域◇ 身近な自然体験型観光の充実

(代表的資源) 道の駅ろまんちっく村、大谷、ジャパンカップサイクルロードレース、ハイキング・サイクリング、観光農園など

◇中央地域◇ 滞在拠点機能の強化

(代表的資源) 餃子、カクテル、ジャズ、商業施設、宮サカスーション、クリテリウム、都市型イベントなど

◇東部地域◇ スポーツと産業観光の振興

(代表的資源) 栃木SC (栃木県グリーンスタジアム)、清原球場、熱気球大会、宇都宮マラソン大会、鬼怒川サイクリングロード、工場見学など

◇南部地域◇ 学ぶ・遊ぶ「時間消費型」観光の推進

(代表的資源) うつのみや遺跡の広場、栃木県子ども総合科学館、とちのきファミリーランド、栃木県総合運動公園、田川サイクリングロード、など

◇北東部地域◇ 歴史と景観の活用

(代表的資源) 羽黒山、梵天の湯、天下一関白神獅子舞、白澤宿、山田川サイクリングロード、農業体験など

観光ルートの開発・活用による連携

第5 推進体制

本プランを推進していくためには、市民、地域、NPO等団体、観光事業者、宇都宮観光コンベンション協会、行政の各主体の役割を明確にし、相互の連携を図りながら一体となって取り組む。

□市民の役割

- 本市への理解を深めるとともに、本市に対する誇りを持って、地域外の人々へ、宇都宮の持つ魅力を伝える伝道師として行動する
- おもてなしの心で観光客を迎え、交流を深める

□地域の役割

- わがまちの歴史や文化に愛着を持ち、一層の魅力向上や活性化に努める
- わがまちの美観維持や、イベント時の来場者へのおもてなしの提供など、観光客を温かく迎え入れる環境を整えていく

□NPO等団体の役割

- NPOやボランティア団体等は、地域に根ざした活動を通して、魅力づくりや様々な観光交流の取組に務める
- 様々な活動を通して、本市の魅力を広く伝えていく

□観光事業者・交通事業者の役割

- 魅力ある商品づくりと質の高いサービス提供に努める
- 観光事業者相互の連携を図りながら、観光産業の振興を図る
- 常に、地域観光の最前線で観光客と接することを意識し、おもてなしの心あふれる接客サービスを提供できる人材を育成する

□宇都宮観光コンベンション協会の役割

- 観光振興の中核的役割を担う団体として、魅力発信、集客促進のための事業を積極的に展開する
- 観光に関わる様々な主体の連絡調整や連携を進め、効果的・効率的な観光振興の司令塔として機能する

□行政(宇都宮市)の役割

- 国、県、周辺市町や庁内各部局との連携・調整を図る
- 観光情報の収集、分析、提供を行う
- 各主体が自主的に行う活動に対する側面支援を行う
- 市民参加型観光まちづくりを進める

「(仮称)観光戦略会議」の設置

本市の観光振興を戦略的に進めていくため、官民で構成する「(仮称)観光戦略会議」を設置する。

本会議は、市及び宇都宮観光コンベンション協会、観光事業の当事者である観光施設や宿泊、土産品、飲食店、旅行業、交通事業者などの民間事業者で構成し、互いに情報を共有、連携しながら具体的な事業の推進を図る。